



今月の話題

- 中南米地震工学コースがスタート
- IPRED 第7回会合と国際ワークショップ
- ペルーCISMID 訪問
- ニカラグア訪問
- コロキウム、ジェネラルミーティング&親善パーティー
- 国際地震工学カリキュラム部会開催

研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース

Bienvenidos a Japón (ようこそ 日本へ) 中南米地震工学コースがスタート

国際地震工学センター 横井 俊明、犬飼 瑞郎、飯場 自子

中南米地震工学研修開講式が、6月5日(木)午前9時半～10時半まで、建築研究所講堂において開催されました。ドミニカ共和国(2)、エルサルバドル(4)、ニカラグア(4)、ペルー(4)の14名の研修生が IISEE 研修に参加します。



中南米研修生

開講式は、2人の日本語＝スペイン語の通訳を介して行われ、建築研究所と国際協力機構筑波国際センターの幹部とIISEE職員を紹介を皮切りに開始されました。次に、木邨洗一JICAつくば所長と、坂本雄三建築研究所理事長が歓迎の挨拶を行いました。



建築研究所坂本理事長

坂本理事長は、建築研究所の歴史と役割を紹介されると共に、ラテンアメリカの研修生に「皆様をお迎えする準備は出来ています。」と述べられました。最後に、エルサルバドルのオスカル・アルマンド・ロペス・トルヒロ氏が研修生を代表して挨拶を行いました。

中南米は日本同様地震が頻発する地域ですが、耐震建築の技術普及が遅れており、地

震による建物倒壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生しています。本研修は、研修生が耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を、講義・構造実験・現場見学により学ぶことにより、自国での耐震建築の普及や、将来の地震被害の軽減に貢献することを目的として実施されます。



開講式

ところで、研修は、日・西語

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

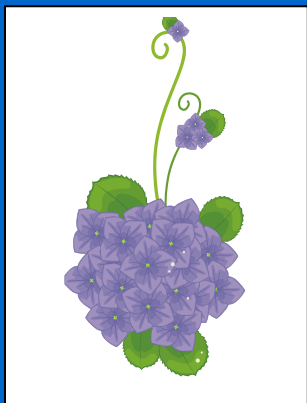
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



の通訳を介して全てスペイン語で行われます。また、スペイン語の講義ノートも配布されます。応募要件には英語に堪能であることは含まれておりません。中南米研修に関する詳しい情報は iisee@kenken.go.jp までお問い合わせ下さい。

IISEE 一同、研修が成就することを心から祈ります。

iBuena suerte! (がんばれ!)

IPRED 第7回会合と国際ワークショップ

国際地震工学センター 横井 俊明、小豆畑 達哉



第7回 IPRED セッション

第7回 IPRED(International Platform for Reducing Earthquake Disasters)会合が、5月28日から30日にかけて、カザフスタンアルマティ市のアルマティリゾートにて開催されました。IPREDは、ユネスコ傘下のプラットフォームで、チリ、エジプト、エルサルバドル、インドネシア、カザフスタン、メキシコ、ペルー、ルーマニア、トルコ、日本の9か国から構成されます。これらの国々は、過去約30年間に、建築研

究所が協力したJICAプロジェクトのカウンターパートです。

また、本会合と同じ会場で、5月27日に「地震被害軽減のため今後10年において必要な行動」と題されたワークショップが開催されました。これらのワークショップ及び第7回会合に、国際地震工学センターからは、横井センター長、小豆畑上席研究員の2名が参加しました。

ワークショップでは、小豆畑が、建研等による建物強震観測に関する最近の研究成果を発表しました。第7回会合では、横井が、平成25年度における建築研究所のIPRED関連活動を報告し、更に今後数年間におけるIPREDのアクションプランの素案と、これを展開していくための手順について提案を行いました。この提案に基づき、全ての参加者がEメールを使って次のアクションプランを議論し、次回会合までにこれを確定することが決定されました。

最後に、ユネスコ-IPRED事務局から、国連世界防災会議に合わせてIPRED8を平成27年3月に日本で開催する旨が提案され、承認されました。

会合では、以下のIISEE通年コースの元研修生と再会することができました。

Edgar Armando Peña Figueroa教授 (エルサルバドル 2004-2005 地震工学コース)

Ridwan Mohamad氏 (インドネシア 1997-1998 地震工学コース、2008 セミナーコース)

Carlos Irala Candiotti教授 (ペルー 1984-1985 地震工学コース)

Raul Alejandro Alvarez Medel教授 (チリ 1994-1995 地震工学コース)

Natalya Silacheva女史 (カザフスタン 1999-2000 地震工学コース)



国際ワークショップ

ペルー CISMID訪問

-JST-JICA SATREPS プロジェクトの一環として-

国際地震工学センター 研究員 谷 昌典



楽しむのは今です。

私は菅野俊介建築研究所特別客員研究員とともに、5月28日～6月6日の日程でペルー国立工科大学の日本ペルー地震防災センター(CISMID)を訪問しました。

今回の訪問は、JST-JICA SATREPSプロジェクトの一環によるもので、プロジェクトで新たに納入された実験機材を使った載荷実験の指導とCISMIDが主催する防災シンポジウムでの講演が主な目的です。新しく納入された機材を用いることで、より複雑な制御下での載荷実験が可能となり、CISMIDで実施できる構造実験の幅が大きく広がることが期待されます。

また、防災シンポジウムは1970年ペルー地震の教訓を人々の心に刻むために毎年行われているもので、私は日本における鉄筋コンクリート造に関する研究の最近の動向について、菅野特別客員研究員は組積造壁の実験データベースについてそれぞれ講演を行いました。



CISMIDの構造実験室にて(左:筆者)

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

ニカラグア訪問 -JICA短期専門家として(2)-

国際地震工学センター 研究員 林田 拓己



INETERでの観測の様子

5月28日～6月9日までの間、前回の横井センター長に引き続きJICA短期専門家としてニカラグアを訪問しました。現地では、マナグア市内および郊外で、微動アレイ探査(SPAC法)・単点微動探査(H/V法)・表面波探査(MASW)の観測指導を実施しました。

探査は、IGG-CIGEO/UNAN(ニカラグア自治大学 地質・地球物理研究所 地球科学研究センター)に勤務している元研修生の

Edwin Nadir Castrillo Osorio氏(2006-2007年 地震学コース)と彼の同僚と一緒に行いました。6月になるとニカラグアは雨季を迎えますが、私の滞在中は幸いにも全日好天に恵まれ、予定していた多くの地点で探査を実施することができました(30度を超える炎天下の中での作業でしたが)。

前回と同じ国際空港南部地域に加え、ニカラグア国立工科大学(UNI)やニカラグア国土地理院(INETER)の構内にも赴き、各種探査を行い



観測アレイの傍を通る動物達

ました。各機関を訪問する際には、研究スタッフを対象とした探査手法の説明会を開き、意見交換を行いました。今後、ニカラグア国内の様々な研究機関が連携し、地下構造や地震ハザード評価に関する基本情報を共有していくことを期待しています。なお、今回取得したデータの一部は、今コース研修生の個人研修でも使用する予定です。短い滞在期間でしたが、多くの場所を訪れることができ充実した時間を過ごしました。

コロキウム、ジェネラルミーティング & 親善パーティー

国際地震工学センター 管理室 室長 飯場 自子

第3回コロキウム(研修生による発表セミナー)が、5月22日(木)、5月23日(金)の二日間にかけて IISEE にて行われました。初日は、地震工学コースの研修生により、彼らの個人研修レポートの概要について発表が行われました、翌日は地震学コース及び津波防災コースの研修生により同様に発表が行われました。

6月2日から、研修生は修士論文を書くために個人研修に取り組み始めました。5月23日(金)のコロキウム終了後、ジェネラルミーティングを実施しました。ジェネラルミーティング(GM)では、研修生は講義や日頃の生活などについての感想や気が付いたことについて意見を述べました。



コロキウムでの発表

GM に続いて、親善パーティーが開催されました。このパーティーは、研修生が苦勞する個人研修を乗り切ることができるようにと、IISEE が企画しました。パーティーは鹿嶋氏の司会により始まりました。ほとんどの研修生は IISEE で勉強しますが、アルジェリアの Faouzi、バングラデシュの Shamsul、エルサルバドルの Pamela、トルコの Onul と Erugun、そしてペルーの Jorge はつくばを離れなければなりません。彼らは東京、豊橋、名古屋、横浜、そして仙台で指導者の下で勉強をします。おいしい料理と和やかな雰囲気の中、パーティーは終了しました。

国際地震工学研修カリキュラム部会 -東京にて開催-

カリキュラム部会は、IISEEの研修プログラムや活動について、関係の皆様へ助言を頂くことを目的として設置されています。委員は、18名の大学教授や公的機関の研究者です。(地震学分野:5人、津波分野:3人、地震工学分野:7人、土木工学分野:3人)石山祐二部会長は、北海道大学名誉教授で(元)IISEEの耐震工学室長でもあります。



カリキュラム部会

平成26年度のカリキュラム部会は、6月18日に東京・四谷で開催され、12人の委員とIISEEスタッフが出席し、2013年-2014年の研修カリキュラムの現状と今後について検討しました。

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>